

6年生が狂言の練習を開始しました

11月29日(月)に、大蔵流狂言方の山口耕道先生(重要無形文化財「能楽」保持者)をお招きして、6年生が狂言の練習を開始しました。5年生も最初の1時間は6年生と一緒に学習に参加しました。

6年生の子どもたちは、11月29日の練習に向けて、11月16日(火)には狂言発表会の役割分担を行いました。演目の「附子」「柿山伏」「猿唄」を何度も読み、「この部分(役)を担当したい。」という熱い思いを持って役割分担の話し合いに臨みました。中には、暗記をした状態で参加した児童もいました。それから約2週間。6年生の子どもたちは、11月29日に向けて、自主練習を開始しました。

山口耕道先生のお話より

みなさん、おはようございます。平荘小学校の狂言学習は、**今年で21年目**です。**狂言を発表する意義をよく考えてください。**もちろん、狂言が上手になってほしいですが…。

狂言は、セリフでもって全てのことを表現し、演劇を進行していきます。**言葉を大事にしてください。**演じる者が、言葉を大事にし、**観客に自分の声が届けられるように意識**してください。



声には個人差があります。生まれつき大きな声の人がいれば、なかなか声が出せない人もいます。声が大きいかからと言って必ず相手に届くかということとそうでもありません。声が小さくても相手に届くこともあります。**それぞれが、課題を持ちながら狂言学習に臨んでほしいです。**そして、**狂言学習を通して、少し自分が変化した、変わったと思ってもらえたらうれしいです。**

人の体は、日々成長しています。**小学生から中学生は、骨が成長する時期**です。とても大事な時期です。女性の骨の成長は18歳ぐらいで止まります。男性の骨の成長は22~24歳ぐらいで止まります。みなさんにとっては、あと6年ぐらいですね。この6年が大事になります。

みなさんに尋ねます。声はどこから出ているのでしょうか。自分の声が外へ出る時、喉だけを使っているわけではありません。

みなさん、耳をふさいで声を出してみましょう。聞こえてくる声(耳をふさいでない時と)違うでしょう。なぜだと思いませんか。これは、**骨伝導**によるものです。耳をふさいだ時に、自分の骨を伝って聞こえてきた声です。耳をふさいでない時に聞こえてくる声は、外の世界とミックスされた声です。録音された自分の声を聞いたことがありますか。「えっ?私の声?」と思ったことがあるでしょう。これも、声の伝わり方が違うからです。

スピーカーは、スピーカーボックス(枠)が大事です。**私たち人間は、自分の体がスピーカーボックスの代わりをするのです。**いかに自分自身の体が大事かということです。**姿勢を大事にします。**

一人一人の声は違います。この違いは体の違いです。よく親子は声が似ると言われます。「〇〇さんは、お母さん(お父さん)と同じ声やなあ。」と言われたことはないですか。それは、親と骨格が似ているから、声が似ているのです。みなさんの**個性を大事にしてほしい**と思います。

「声を出す」

山口耕道先生との最初の練習は、発声でした。「あ」「い」「う」「え」「お」の声の出し方を丁寧に教えていただきました。

言葉は、「あ」「い」「う」「え」「お」の母音を中心になってできています。今から一緒に声を出してみましょう。

自分の口の開け方、舌の使い方、歯の位置を考えながら発声しましょう。



〈口形の写真：光村図書「こくごー上 かざぐるま」より〉

口形を意識する



あ

全体に 口を大きく広げる
歯はとじていない



い

口の両端を左右に大きく広げる
口角がクッと上がるように
歯はとじている



う

唇を尖らせ、前に押し出す
唇をすぼめる
舌は宙に浮いている
歯は少しついている



え

口角を上方左右に広げる
舌は縮かんで中ほどにある
歯はついていない



お

口を大きく上下に伸ばす
唇は少しすぼめる
内側は空間がいっぱい
広がっている

5年生のみなさん、来年度になると、こういうことをします。声は、一人一人特徴があります。違う声が重なるからいいのです。自分の声を大事にしてください。



口形とともに、背中をちゃんと伸ばします。そして、おなかにウンと力を入れます。すると、発声がずいぶん違ってきます。お腹に手をおいて発声すると、力が入っているのがわかります。腹筋が活躍するようにします。寝ている時は、横隔膜がうまく作用しますが、立っていると横隔膜を使った呼吸を忘れてしまうことがあります。「アッ」「イッ」「ウッ」「エッ」「オッ」と音をプツツと切って発声するコツは、姿勢をよくし横隔膜を上手く使うことです。

私たちが生まれる前から踊りや唄があります。

踊りや唄を表現する時、自分の体内側から沸々となるのがいいのです。

6年生にとって、今年は狂言21回目を迎えます。間違えてはいけないのは、去年の先輩の狂言に近づこうとするのではないのです。真似をしようとは思わないことです。今年の狂言は、自分たちでつくっていくのです。結果的に同じになってもいいのです。自分の中からつくっていくという意識をもってほしいです。

言葉で人に何かを伝えようとする時、発声法を会得することによって、伝えやすくなります。

猿唄の練習をしてみましょう。日本の拍子である8拍子です。3・3・7拍子も同じです。日本のほとんどの唄が8拍子になっています。

人間は気持ちが高揚してくるとリズムをつけます。本来音楽・リズムを刻むのは、体（気持ち）が高揚してくるからで、それが、踊りやダンスになります。言い換えると、唄をうたう時は気持ちが高揚し、ノリノリになってくるということです。自然とそうなるのです。